

## 2023年度 教育改革推進事業成果報告書

### 「クリニカル・エデュケーター（CNE）育成コースのカリキュラム評価に基づく、 新たな教育モデルの開発と広報活動」

1-1.修了生調査、1-2.管理者調査、1-3.カリキュラム評価会について報告する。

#### 1-1. 修了生調査

##### 目的

本カリキュラムで①向上した CNE のコンピテンシー、②学習内容と方法の適切性の検討  
具体的内容と結果

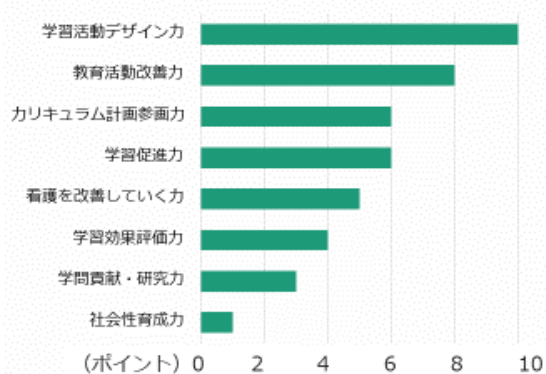
修了生 25 名に対する Web 調査を行った。分析対象回答数 15 部であった。

##### ①向上した CNE のコンピテンシーについて

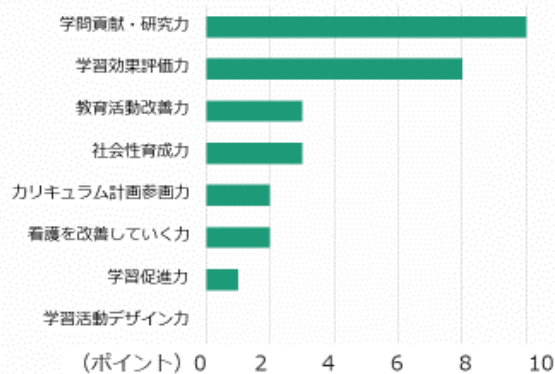
CNEコース在学中に以下のコンピテンシーはどの程度向上しましたか。(5件法の平均値)



##### 【大学院修了後、役立つコンピテンシー】（3つ選択）



##### 【大学院修了後、不足していたコンピテンシー】（3つ選択）



##### ②学習内容と方法の適切性

必修科目に対する重要度は、5 ポイント中、4.4～5.0 ポイントであった。

自由記載により、現在のカリキュラムの優れた点は、「教育に対する理念形成・視点の拡大」、  
「幅広い科目設計と興味に合わせた学習課題」、および「実際の教育実践と経験学習の充実」で  
あり、不足している点は、「CNE 同士の修了後の協働機会の不足」「組織改革に関与する能力」  
「臨床における研究スキルの不足」が挙げられた。

## カリキュラム改善に向けた示唆

・「学習促進力」、「学習活動デザイン力」等、教育の実際に直結する能力は、役割遂行を充足するレベルで育成できている。

・「学習効果評価力」、「学問貢献・研究力」等、教育や実践を改善していく能力は、CNE 役割遂行に対して不足がある。・科目構成については、満足度が高い。

## 1-2 看護管理者調査

### 目的

看護管理者に対する、①組織における CNE の需要、②重要だと思われるコンピテンシー、③大学院進学の障壁の調査

### 具体的内容と結果

第 27 回日本看護管理学会インフォメーション・エキスチェンジに会場した看護管理者 56 名から回答を得た。

#### ①組織における CNE の需要

「大変ある」48.2%、「ある」42.9%、「あまりない」5.4%、「全くない」0%、無回答 3.6%であった。

#### ②重要だと思われるコンピテンシー（複数回答あり：数字は重要と回答した者の割合）

「病院内教育計画の設計（カリキュラム計画参画力）」55.3%「On the Job Training の計画（学習促進力）」55.3%「教育計画の評価活動（学習効果評価力）」53.6%「看護の質向上（看護を改善していく力）」37.5%が上位であった。

#### ③大学院進学の障壁（複数回答あり：数字は選択した者の割合）

「入学対象者の休職」54.9%、「学費」43.1%、「入学対象者の試験への準備性」23.5%、自由記載には、「専門看護師や認定看護管理者など資格認定につながらないと休職と学費の補助ができない」、「人選、ポジションや立場（職位）」等が回答された。

## カリキュラム改善に向けた示唆

・CNE については、総合的には「いてくれたらよい」、「いて欲しい」存在であるが、認証制度がないことが影響し、大学院に就学する際の給与や身分保障がしにくいという意見があった。

・CNE 役割として期待することについて、本カリキュラムで提示している役割に加え、自ら役割開発できる、リーダーシップがあるなどがあった。

### 1-3. カリキュラム評価会

#### 目的

改善したカリキュラム案に対する意見聴取

#### 具体的内容と結果

外部評価者 2 名、他大学教員、修了生、医療系雑誌編集者の参加を得た。調査に基づき教育改善を必要とするコンピテンシーを「科目・学習内容の改善」「修了後サポート」に分け改善の具体策を提示し、外部評価者ならびに参加者とのディスカッションを行った。

参加者数：22 名

外部評価者：日本赤十字看護大学 看護教育学 教授 佐々木幾美氏

東京大学医学部附属病院 看護部長 武村雪絵氏

#### 教育改善を必要とするコンピテンシー

科目・学習内容改善	修了後サポート
看護を改善していく力 社会性育成力 カリキュラム計画参画力 学習効果評価力 教育活動改善力	学問貢献・研究力 カリキュラム計画参画力

#### 外部評価者からの講評

・大学院での CNE 育成においてはコンピテンシーの向上が重要であるが、系統的かつ実践的な内容を取り入れ、臨床で役立つスキルを身に付けている。

・学生から師長まで広範な対象に対する教育力があり、本人次第でどんな場所でも活躍できる人材を育てている点でこのコースは素晴らしい。コロナの影響により、学生の状況が多様化しており、その変化が臨床の新人にも影響を与えている。学生の多様性を見極め、常に変化に対応し、効果的な学習方法を考える力がますます必要である。

・評価に関するコンピテンシーは重要であり、認知的な学習だけでなく、実践的な学習が必要。

・研究力に関しては課題と認識されているが、上級実践コースの特徴として十分な時間が確保できない。修了後のサポートや博士課程への進学が必要なのではないか。

・組織の変革に関わっていく能力は重要である。所属した組織によって役割を開発して行くことが必要なので、学習内容に含めるのはいかがか。

・このコースの認知度の向上が必要である。認定看護師修了者などへのアクセスはいかがか。資格認証も考えていく必要がある。

### 1-4. カリキュラム改善（最終）

①コンピテンシーの定義の共有・学習プロセスにおけるコンピテンシーの明示化

②看護教育学演習Ⅰの変更 評価指標の学習、カリキュラム計画のワークの追加

③看護教育学特論Ⅲの変更

役割開発・コンサルテーションに向けた知識学習とワークの追加

④リフレクションした内容についてコンピテンシーを基盤に集積化できる仕組みの構築